



**労使議論を無視した、一方的な運転士から車掌への兼務発令反対！  
安全第一で働きがいのある職場を創りだす9・12集会**

**全参加者で「集会アピール」を確認する！**

## 集会アピール

2016年9月12日、大宮地本は「労使議論を無視した、一方的な運転士から車掌への兼務発令反対！安全第一で働きがいのある職場を創りだす9・12集会」を開催した。

9月5日、さいたま運転区から支社運輸部に異動した組合員が、わずか2週間で宇都宮車掌区へ兼務発令となった。大宮地本は申2号36協定の団体交渉で車掌職場における要員問題を議論し、実乗務員が標準数を下回っている厳しい状況であり、改善に向けて議論していくことを労使で確認してきた。今回の兼務発令は、形式上は支社から車掌区への異動だが、発生している現実や職場の組合員の声を聞けば、運転士職から車掌職への異動と何ら変わらない。労使議論を無視した一方的な兼務発令であり、断じて認めることはできない。

また横浜地本管内の運輸区職場では、特定の運転士に車掌の要員不足の解消を目的とした兼務発令の恣意を行っていることが発覚した。その内容は「人事考課上プラスとなる」などの利益誘導を行い、断れば「業務指示でやってもらう」という威圧的なものだった。

共通していることは、車掌の要員不足を根本的に解決するのではなく、その場しのぎの対策である。そしてこの間、職場の奮闘で創りだしてきた「ライフサイクルの深度化制度」を破壊する行為だ。運転士に車掌業務を兼務させることは、運転士に何でも担わせることであり、車掌にとっては運転免許を持っていない車掌は必要ないという事である。運転士・車掌がプロとして技術や技能を蓄積して、これまで創り上げてきた安全文化や経験を否定する全組合員に関わる大きな問題である。したがって、私たちは安全第一を脅かす兼務発令には断固反対する！

大宮支社は車掌職場で要員が逼迫する理由を「東日本大震災で減少した採用数の問題」「予期せぬ退職や病気などが原因」と述べている。職場では年休が入らず、時季変更権の行使が乱用され、年休を取得するために休日出勤を行っている。その影響で昨年度は大宮車掌区と宇都宮車掌区で合わせて17名が年休を失効する事態が発生している。そのような状況にもかかわらず、7月1日には4名が公募制異動で転出している。現場の状況を見れば、本社施策を担うために人事運用を行う企業体質は異常である。兼務発令は単なる要員問題ではない。退職者と採用者のバランスをとらずに放置したとすれば、会社経営陣のマネジメントミスであり、経営責任を問わなければならない。

現在の運転・車掌職場は、労組対策や労務管理を目的としたと思われる施策により、働きがいを感じられなくなり、本来業務よりもマイプロや委員会活動が評価されている。JR東日本会社が本来やるべきことを見失い、安全輸送の要である乗務員職場の正常な運営に支障が出ているのは明らかである。このような状況が改善されないのであれば、この間大宮地本が申し入れてきたように、本来やるべき業務を脅かすマイプロや各種委員会活動の一時中止を議論していかなければならない。

運転・車掌職場で働く全組合員の皆さん！

この危機的状況を打開するために、職場で現れている問題を基に議論を巻き起こそう。同時に会社の経営姿勢を質すために、闘争戦術としてのスト権議論を「秋のたたかい全組合員総対話行動」で貫徹し、17春闘へ繋げていこう！そして乗務労働の特殊性を堅持し、安全第一で働きがいのある職場を創るために全組合員で立ち上がろうではないか！

2016年9月12日

東日本旅客鉄道労働組合大宮地方本部

労使議論を無視した、一方的な運転士から車掌への兼務発令反対！安全第一で働きがいのある職場を創りだす9.12集会

**安全で働きがいのある職場を創るため、  
全組合員で読み合わせをしよう！**